

文学部 嶺崎寛子先生 推薦

『ことばと国家』

田中克彦 著

資料番号: 2000100068

一見、無色で中立的に見えることば。

しかしことばは民族の成立や、国民としてのアイデンティティ獲得などと無縁ではありません。

ことばの持つ政治性、その定義の問題など、

学部問わず、大学における学びに必要な基礎

知識を得ることができる、色褪せない名著です。

文学部 嶺崎寛子先生 推薦

『どうして男はそうなんだろうか会議
—いろいろ語り合っって見えてきた
「これからの男」のこと—』

澁谷知美, 清田隆之編

資料番号: 2022103107

あなたの考えは、「オリジナル」でしょうか？

人はみな、自分が好むと好まざるとにかかわらず、自分が生まれて生きてきた社会の価値観や物の見方を刷り込まれています。ジェンダーに関して、どんな考えを「アタリマエ」とみなしてきたかを知り、デトックスしておく、大学生生活が楽しいものになるでしょう。男女問わずおすすめです。

文学部 嶺崎寛子先生 推薦

『ボディ・サイレント —病いと障害の人類学—』

ロバート・F・マーフィー著

資料番号: 0092105643

「脊椎に出来た「良性」の腫瘍によって神経系が徐々に破壊されるという死に至る病に冒された人類学者が自分自身や家族、周囲の社会をフィールドワークした感動のドキュメント」と、Amazonの内容紹介にあります。自分の体が自分のものでなくなる過程を人類学者がその職業的視点を生かして描いた、オートエスノグラフィー（自分を対象にして行う質的研究）の金字塔です。

法学部 原昌登先生 推薦

『奇跡の社会科学』

—現代の問題を解決しうる名著の知恵— 』

中野剛志著

資料番号:2022106497

ウェーバー、トクヴィル、ケインズ...高校の授業で名前は暗記したけれど、誰だっけ？という人もいらっしゃるのではないのでしょうか(私も大学入学時はそうでした)。

本書はこうした「知の巨人」の思想をわかりやすくまとめた入門書。本書で興味を持った「知の巨人」がいたら、ぜひその著作について、翻訳(全訳)や原文に挑戦してみましよう(授業で読むこともあるかもしれませんが)。

社会問題を広い視野で考えたい人にお勧めです。

法学部 原昌登先生 推薦

『話し合いの作法 —「対話と決断」で成果を生む—』

中原淳著

資料番号:2022106496

大学では、誰かと「話し合い」をする機会が高校までと比べて大きく増えます。ゼミの授業、部活やサークルの運営、ほかにも「誰かと話し合って何かを決める」場面が増えていきます。本書の著者は話し合いにも「対話」と「議論」があると述べていますが、さて、対話と議論の違いって何だと思いませんか?? 気になった人は、ぜひ、本書を手にとってみてください。「話し合い」をする「意味」と「コツ」がわかります。

法学部 湯原心一先生 推薦

『国家はなぜ衰退するのか —権力・繁栄・貧困の起源—(上・下)』

ダロン・アセモグル, ジェイムズ・A・ロビンソン 著

資料番号:(上) 2013110071・(下) 2013110072

本書は、国家の繁栄と衰退の原因として、「制度」を挙げる。そして、「収奪的」(extractive)な経済制度と「包括的」(inclusive)な経済制度を比較し、国家の繁栄には包括的な制度が必要であると指摘する。ここで、包括的な経済制度は、安全な私有財産、公平な法体系、公共サービスの提供を特徴とするものである。著者は、経済学者であるが、法学者にも示唆に富むものになっている。

『資本主義と自由』

ミルトン・フリードマン著

資料番号: 2012104461

昨今は、政府が肥大化し、その役割が重要視されている。政府は、社会にある問題を一定程度解決することを求められているが、すべての問題を解決するような万能の存在ではない。政府にどのような問題の解決が求められ、どのような問題の解決が求められていないのか、理解することが必要だろう。本書は、保守派の経済学者の筆によるものであるが、リベラルな立場からでも多くの示唆を得ることができるだろう。

『コンサルタントの道具箱
— 勇気と自信がもてる16の秘密— 』

G. M. ワインバーグ著

資料番号: 2022106495

著者のワインバーグ氏は、IBMでプログラマーとして働いた後コンサルタントになった人物で、多くのソフトウェア開発に関する名著を書いています。その中でこの本を推薦したのは、他の本に比べて読みやすいことと、最も重要と思われる「第5章 願いの杖」が非常に上手に説明されているからです。これまで学生さんに接してきて、多くの皆さんに必要なのはこの本で言う「願いの杖」だと感じています。

『高校生のための経済学入門』

小塩隆士著

資料番号: 2002108124

タイトルに「高校生のための～」とありますが、大学に入学したばかりの皆さんの方が読むタイミングとしては適していると思います。専門科目や教養科目など何らかの形で経済学の入門科目の履修を考えている人、あるいは、履修とは別に、単に、経済学とは何かに関心のあ
る人には、経済学への理解が深まる自発的学習書の一つになると思います。